

<http://www.kaiji-press.co.jp>

2010年
11月2日(火)
13747号

KAIJI PRESS 海事プレス

KR
KOREAN REGISTER
韓国船級 www.krs.co.kr
東京 03(3660)7611
神戸 078(221)7693 福岡 092(452)1522



アンカー社が投資した飯野海運向けケミカル船

アンカー社、新ファンド組成へ

■大手商社と連携、リスク投資も

アンカー・シップ・インベストメント社が運営する船舶投資ファンドの後継となる第2号ファンドの内容が明らかになった。第1号ファンドの投資が進み、投資期限も迫る中、海運会社や投資家のファンドへのニーズは引き続き高いと判断。投資額2000億円超の大型ファンドを立ち上げる。新ファンドでは裸用船に加えて船舶管理会社と提携して定期用船も扱うほか、オペレーター向けだけ

でなく船主向けの案件も手掛ける方針。さらに一定範囲内で格安船への投資を行う一方、これまでと同様に業績に懸念がある先への解決策も提供していく。大手商社と提携契約を結び、ファンドの一部で共同投資にも踏み切る。また、今回はエクイティ(自己資金)についてファンドでは異例となる格付を取得。投資家に取り組みやすい環境を提供する。

>> 2ページ

EAD INES

記者座談会/海運この1カ月<上>

ケーブルサイズ市況が独歩高
定期用船のオンバラ化問題が議論に
>> 8ページ

尾道造船 2015年納期に突入

尾道造船は37型バルカーの受注を重ね、グループの佐伯重工とともに2014年の線表をほぼ確定。

>> 3ページ

邦船社の不定期船部門 下期はケーブル3万ドル台前提

主要邦船社は通期業績予想で、下期のドライ市況前提をケーブルサイズで3~3万8000ドルに設定。

>> 14ページ

T Sラインズ/MISC 日本/東南ア航路で提携

T SラインズとMISCは11月半ばから、日本/東南アジア航路でスロット交換を開始する。

>> 4ページ

《連載》カナダの物流戦略 >> 12ページ

アジア太平洋ゲートウェイ構想<下>

大阪港、戦略港湾へ 推進準備室を開設

戦略港湾・阪神港一体化へ向けて大阪港は推進事務局準備室を開設。

>> 4ページ

青灯 >> 6ページ

円高、逆手に取れる？

■全記事の目次は最終面■

Marine net [ShipServ日本代理店] - <http://www.marine-net.com/shipservi/index.html>

マリンネット株式会社 〒105-0001東京都港区虎ノ門1-7-6 升本ビル 2階 TEL: 03(5157)8757 FAX: 03(5157)8758

60,000ページビュー/日を超える海運・造船業界の「ポータルサイト」(玄関口)。金融機関様向けに船価鑑定・コンサルティングサービスも行っております -- <http://www.marine-net.com> --

【ShipServ】 - www.shipserv.com - 海運系電子取引サービスのリーディングカンパニーです

【ShipServ Pages】 - www.shipserv.com/pages - オンライン上で無償提供している船用品サプライヤー検索サイトです
世界中で22,500社以上の会社が登録されており、メーカー名・国/港・製品名を元に検索する事ができます SHIPSERV

【ShipServ TradeNet】: 船用品売買で世界最大の電子商取引仲介サイトです 船主、管理会社、造船所等(買い手)とサプライヤーを繋ぎます
買い手側は140社以上に上り4,500隻の船、サプライヤー9,000社以上のお客様にご利用頂いております

アンカー社、新ファンド組成へ

■大手商社と連携、リスク投資も

アンカー・シップ・インベストメント社が運営する船舶投資ファンドの後継となる第2号ファンドの内容が明らかになった。第1号ファンドの投資が進み、投資期限も迫る中、海運会社や投資家のファンドへのニーズは引き続き高いと判断。投資額2000億円超の大型ファンドを立ち上げる。新ファンドでは裸用船に加えて船舶管理会社と提携して定期用船も扱うほか、オペレーター向けだけでなく船主向けの案件も手掛ける方針。さらに一定範囲内で格安船への投資を行う一方、これまでと同様に業績に懸念がある先への解決策も提供していく。大手商社と提携契約を結び、ファンドの一部で共同投資にも踏み切る。また、今回はエクイティ(自己資金)についてファンドでは異例となる格付を取得。投資家に取り組みやすい環境を提供する。

アンカー社は2007年5月、最大投資額2000億円弱の第1号ファンドを組成。日本で船舶投資ファンドが本格化する先駆けとなった。これまでの取り組みを積み上げると、最大投資額に近い金額まで到達しつつある状況だ。

第1号ファンドは順調だが、投資余地が残り少なくなった上、投資期限が迫っており、それ以降の案件が持ち込まれると対応に工夫が必要となる。第2号ファンドの組成が急務となり準備を進めた結果、用船先となる海運会社のニーズは引き続き高く、投資家の需要も見込めると判断。今月から投資家への説明を行う。投資家としては金融機関を中心に商社、年金基金などの機関投資家を見込んでいる。投資規模は第1号ファンドを上回る見通しだ。

第2号ファンドは(1)フラッグシップとなるような大型船への投資

(2)国内外優良オペレーターの用船保証
(3)期間10年程度の長期用船—という条件での投資を基本方針とするが、新たな形態の投資にも踏み出す。その1つが定期用船契約の導入。

新たな国際会計基準の導入でバランスシート(B/S)への計上基準変更が予想される中、裸用船、定期用船の二本立てで海運会社のニーズに柔軟に 대응する。

第2号ファンドでは国内有力船主(船舶オーナー)向けの案件にも取り組んでいく。船主は良質案件への投資意欲があっても、円高による影響で十分な資金調達を行うことが難しい。ファンドが船主と共同出資して船を建造し、当該船を裸用船で船主に貸船。船主が船舶管理した上で国内外の優良オペレーターに



アンカー社が投資した飯野海運向けケミカル船

長期用船するのが基本形だ。

リスク投資にも踏み切る。マーケット低迷などで格安船が市場に放出された際、迅速な投資を行いキャピタルゲインを狙う。ただしリスク投資は一定範囲内に収める方針。また、引き続き船舶保有機能を通じた業績懸念先への解決策も提供する。さらに大手商社とも連携し、持ち込まれた個別案件に共同投資することを可能にした。全体として第2号ファンドは多様なニーズに応えるため、投資運営に柔軟性を持たせている。